群馬県立自然史博物館
海の生き物にふれよう、食べよう、学ぼう

実施期間：平成 28 年３月 19 日（土）～平成 28 年３月 27 日（日）

【事業の内容・目的】

■海のない群馬県における海洋教育の一助とすることを目的に、内陸に所属する博物館ならではの視点から、「海の生き物の多様性」「海洋資源の持続可能性」をテーマとして、海が果たしている役割、海が直面している環境問題、わたしたちが海から得ている恵み、そして群馬県と海との結びつきについて学べる場を提供した。

■教育普及事業３件を通して、生きている海洋生物や、現在の海洋環境への関心を誘発すると同時に、わたしたちの暮らしが海洋に与えている影響について学び、「自然環境」との共存について見直すきっかけとなる機会を提供した。そして、おとなからこどもまで、この豊かな自然を次世代へと引き継ぐことの重要性を実感していただく場を創出した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

活動の様子

１．プロに学ぶ 季節の味覚とお魚まるごとを楽しむお料理教室

【開催日時】平成２７年１１月１日（日）１３：３０ ～１５：３０
【開催場所】群馬県立自然史博物館　実験室
【参加者数】２１　人
【活動内容・目的】

●私たちが日常的に消費している「豊かな海の恵み」は、現在、乱獲や環境汚染などにより枯渇の危機を迎えています。生産者と失われつつある海洋資源の現状について学ぶ場を創出しました。

●和食のプロに、魚の取り扱い、家庭でもできる旬の食材をあますところなく丁寧に使い切り、おいしくいただく技を学びました。参加者全員が食卓を囲み、「命をいただく」ことについて想いをはせました。

お料理教室開催場所

今日の内容についての説明の様子

【構成】講義の主な流れ
・「命」をいただくことの大切さ
・限りある海洋資源
・生産者がおかれている現状、生産者と消費者を橋渡しする料理人
・生産者があってこその、日々の食卓。限りある資源を丁寧に食べ尽くす技と姿勢

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【参加者の声】

◯海の資源を大切にしたい。感謝をもって魚を食したい。
◯海無し県なので小さい頃から海に関する知識が不足しています。食を通じることでより一層、海に興味が持てる今回のようなイベントをまた期待します。
◯食材としてだけではない視点も必要なのだと思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

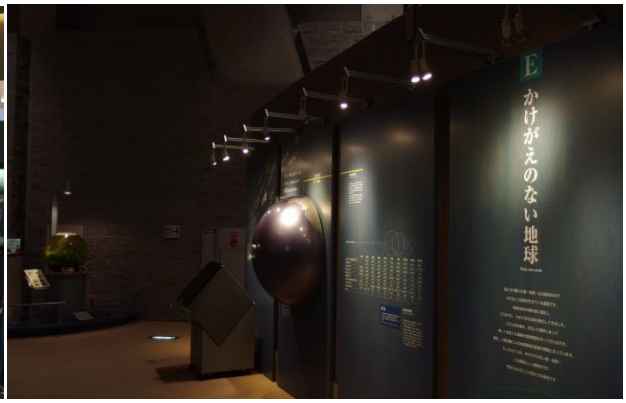
２．「海洋」が及ぼす地球環境とバランスへの影響について解説した動画制作・上映

【開催日時】平成２８年３月１９日（土）～平成 28 年３月 27 日（日）
会期・開館中随時上映
【開催場所】群馬県立自然史博物館　エントランス
【活動内容・目的】

●常時上映できる動画解説により、「海の博物館活動」や常設展示の有効な補助教材となりました。

●本映像は、来館者からも「わかりやすい」と好評だったため、これを機に当館常設展・かけがえのない地球の環境問題コーナーに設置し、より多くの来館者に「海洋教育」を中心とした環境テーマを普及していくこととしました。

エントランス　上映風景



常設展Ｅコーナー　かけがえのない地球入口

動画上映場所・地球はいま

動画上映モニタ

【参加者の声】

○いろいろな工夫をして生きている生物。人間がじゃまをしてはいけないと思った。

○海は人間だけの物ではないので大切にしたいと思いました

○海に関することがよくわかった

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３．ミニ水族館がやってくる！

【開催日時】平成２８年3月１９日（土）～平成 28 年３月27 日（日）
９：３０ ～ １７：００
【開催場所】群馬県立自然史博物館　エントランス
【参加者数】8,２６６人
【活動内容・目的】

●海の無い群馬県で、生きている海の生物に触れながら、多様な生き物の姿を観察し、海や海洋生物に対する好奇心を誘発する。専門家による海の生き物解説を行い、海洋生物に対する理解を深める

●生き物を観察する眼を育て、自然を見つめるまなざしを育成するとともに、身近な自然環境への関心も喚起する。

開催場所の全景の様子

専門家による解説の様子

生きている海の生き物を観察するためのタッチプールを設置し、専門家による解説を２日間実施した。

【海の学び効果１】

生き物に触れる経験を通じて、海洋生物に親しむことをスタートとして、生き物の形や動きを深く観察し、生物の「身の守り方や生存戦略」を探ることを通して、生き物観察のおもしろさを学ぶ場を提供することによって、海の重要性、海の生物との共存を考えていただく場となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【海の学び効果２】

解説者不在時には、今回制作した「海洋」が及ぼす地球環境とバランスへの影響を解説した動画を上映し、海洋で生じている様々な環境問題について認識していただく場とした。タッチプールが、ただの「生き物に触れる場」ではなく、来館者と海洋を繋ぐ場として機能することにより、来館者が「海からの恩恵」と自然環境について学ぶ場を創出した。

これにより来館者に対して、「触れる海の生き物」の認識から、「生き物が暮らしている環境」にも興味関心の喚起を効果的に行うことができた。

【参加者の声】

○海の中で生き物どうしの関わり合いが数種類だがわかった

○生き物の生体について興味をもった。さわれたことで対象物との距離が近くなれた

○いろいろな海があることを学んだ

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

- 海のない地域における自然史系博物館が実施する海洋学習のモデルケースとなるべく、海の生き物に触れ、海の生き物を食し、海洋環境について学ぶことを主軸とした「海無し県だからこそ」の教育普及事業を実施した。
- 地域を代表する自然史系博物館として、また県内のリピーターが多い博物館として、身近にはないが、日々の暮らしで間接的、直接的につながっている「海洋」について関心をむけていただくとともに、海洋を含めた自然環境に関心を持ってもらうことに寄与した。
- 本教育普及事業の開催を機に、日々の暮らしや食卓を見直すことで、海洋資源を大切にしていきたいという来館者の意識変容が認められた。食を通じて、海洋の生物に触れることを通じて、海洋と海洋資源を大切にしていきたいとの声が多く寄せられた。
- 「海洋教育」を教育普及事業として実践することは、当館の常設展にはない「海」の学びを提供するだけに留まらず、「海」「川」「山」がつながっていること、地球規模での自然環境について学ぶ場を創出することができ、効果的な学びのテーマとなることが再確認された。「体感」「共感」「実感」を通して、「楽しみながら学ぶ」ことができたことは、社会教育施設としても大きな収穫であった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．群馬県安中市立碓東小学校	・ミニ水族館オープン日の参加。 ・ミニ水族館オープン後の解説ガイドに参加。 （児童　34 名・保護者　46 名）
2．群馬県立女子大学	・ミニ水族館、お料理教室のチラシ制作 （教員１名・大学生　５名）
3．群馬県富岡市	・広報など
4．群馬県自然環境課	・広報など
5．自然史博物館友の会	・解説など

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．ニューライフ富岡	タッチプール特別界説（３月１日）
2．上毛新聞社	タッチプール特別解説（３月 18 日）
3．上毛新聞社	硬い動物「面白い」（３月 20 日）

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。